



2013年、人類を脅かす異次元からの使者「KAIJU=怪獣」と、それを迎え撃つ巨大な人型兵器「イェーガー」との闘いを最新の映像技術で描き、怪獣映画に慣れ親しんできた我々日本人を熱狂させたアクション超大作『パシフィック・リム』公開。そして2018年、前作の公開直後から噂されていた続編が『パシフィック・リム：アップライジング』としてついに公開された。よりスタイリッシュにアップデートされた新世代のイェーガー、思わぬ方法でパワーアップを果たす怪獣、メガ東京を舞台に再び描かれる壮絶なバトル。本誌読者の好きなものだけで作ったようなこの映画、ホビー・ジャパンならその魅力を模型で表現したい!! ということで、第3特集では『パシフィック・リム：アップライジング』の見どころを小池徹弥と寒河江弘の二人がBANDAI SPIRITSから発売中のアクションフィギュアとプラキットを使って立体化。二人のディオラマビルダーによる迫力の情景をお楽しみいただきたい。

【第3特集】

PACIFIC RIM
パシフィック・リム
 アップライジング

『パシフィック・リム：アップライジング』
 全国の劇場で絶賛公開中!!

配給 / 東宝東和

©Legendary Pictures/Universal Pictures.



▲前作に比べてよりスリムかつアニメっぽいデザインになったイェーガーたち。各機体ごとに異なる武装を使い、怪獣との決戦に挑む。以前のイェーガーより動きはスピーディーになり、戦闘シーンではジャンプやキックまで使っているのだ

『パシフィック・リム』の戦いから10年、イェーガーと怪獣のビッグバトルが帰ってきた! 『パシフィック・リム：アップライジング』は、よりスピーディーかつオタクっぽいムードになった、正統な続編である。舞台となるのは前作から10年後、世界は平和を取り戻し、怪獣の再侵襲に備えてPPDC(環太平洋防衛隊)が組織された2035年の世界だ。前作で戦死したニューストウツの息子であるジェイクは、優秀なイェーガーパイロットでありながら空軍を離れ、都市でイェーガーの部品を違法売買するブローカー業に身を投じる。しかし、ジェイクが一人でイェーガーを組み立てていた孤児のアマラに出会ったことで、ストーリーは大きく動くことになる。アマラとともに逮捕されたジェイクは無罪放免と引き換えにPPDCの教官を務めることになり、アマラはパイロット候補生となるのだ。そこに現れる正体不明の黒いイェーガー。そして中国のシャオ・インダストリーによって建造される、パイロットを搭載しないドローン・イェーガーをめぐる陰謀。さらに、前作で完結勝利したはずの怪獣たちが、再び地球を狙って動き出す。新世代のイェーガーとジェイクらパイロットたちは、この危機にどう立ち向かうのか。

主演に『TIEファイター』の次にイェーガーに乗った男「ジョン・ホイエガ」を迎え、かつてジェイクのパートナーだった同僚教官にスコット・イーストウッド(目と眉毛の距離の近さが完全にイーストウッド家の遺伝ですごい)という布陣。さらに前作からは森マコに加え、ニュートンとハーモンのオタク科学者コンビも再登場する。

イェーガーVSイェーガーという鉄板の展開から、東京を舞台とした怪獣との大決戦まで、超ハイカラーなバトルの連続でオタク心も大満足。新たな怪獣プロレスのマスターピースを、刮目して見よ!

最終決戦から10年、戦いは新世代へ 文/しげ



▲PPDCにはさまざまな人種の若手パイロット候補たちが集結。日本からは新田真剣佑も参加している。千葉真一の息子がイェーガーに乗るのだ!



▲今作ではついにイェーガー対イェーガーの激突が実現。「これを続編」と叫びたくなる展開だ。前作のように夜間ではなく、昼間の戦闘シーンであることにも注目いただきたい!



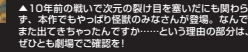
▲ただならぬ因縁を抱えているかつての同僚パイロット、ジェイクとホイエガの二人組。それ以外にもスコット・イーストウッドはほとんどない男前である



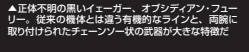
▲最終決戦の地は東京なのである。前作でも「母の墓を壊す」といって巨大な怪獣を倒した。今作ではそれが大逆無道な行為。ほとんどゴキウミ待ちのような「デイト」監督が考えた東京」がごっつり見られる



▲真ん中の白い服の人が、新キョウコウのリーダー・フン・シオウ。中国の巨大企業シャオ・インダストリーのトップで、現在無人で起動するイェーガーを開発中。両腕には森マコ、そして現在シャオ・インダストリーに所属しているニュートンの装束



▲10年前の黒いイェーガーの型目を見てもいいけども、本作でもやっぱり怪獣のみならずが台詞。なんてまた出てきたんですけど……という理由の部分は、ぜひとも劇場でご確認を!



▲正体不明の黒いイェーガー、オプシディアン・フォーリー。従来の機体とは違う有機的なラインと、両腕に取り付けられたチェーンソー状の武器が大きな特徴だ

特別企画

スティーヴン・S・デナイト監督 インタビュー

聞き手：しげる

『パシフィック・リム：アップライジング』のジャパンプレミアを後に控えた3月28日、我々ホビー・ジャパン編集部は来日したスティーヴン・S・デナイト監督のインタビューに成功した。一介のオタクからオスカール監督に上り詰めたギレルモ・デル・トロの後を引き継いだデナイト監督が果たしてどんな人物なのか？好きな怪獣は？ガンダムは好きなの？でも実はアクションオタクじゃないの？期待と不安で臨んだインタビューの結果は？

スティーヴン・S・デナイト STEVEN S. DEKNIGHT

『パシフィック・リム：アップライジング』の監督・脚本を担当。ジョス・ウェドン製作総指揮のテレビシリーズ『パフォーミング・アーツ』の脚本や『エンジェル』、『ヤング・スーパーマン』、『ドールハウス』で製作・監督・脚本を担当。本作が長編劇場用映画としては初の監督作となる

